

ジャパン・フェスティバル実行委員長からの報告

JCV 会長兼任 JF2011 実行委員長 デービス啓子



2011 年度ジャパン・フェスティバル実行委員長を務めましたデービス啓子です。オーストラリアの中では一番大きなお祭りとして定評を頂いておりますジャパン・フェスティバル（以降 JF と省略）は、領事館を始め、地元ホワイトホース市、ボックスヒル TAFE カレッジ、スポンサー、出店/展示、出演者、ボランティアの方々、実行委員会の方々、まだまだここにあげ切れない皆様方のご尽力をもちまして、今年も無事に終了いたしました。本当にありがとうございました。この中の1つ欠けても、この JF を成功に導くことは出来なかったことでしょう。出店 110 店舗、食べ物のブースが並び、活け花、盆栽、茶道、日本の小物

があったり、ワークショップがあったりと、日本を紹介するとてもよいイベントになっております。約 6 ヶ月を JF の準備に費やし、試行錯誤の時もありましたが、今回で 4 回目の実行委員長として、この経験を十分生かす事が出来ました。また、それぞれの役員の方々も力強くサポートして下さい、頼もしいかぎりでした。

今年の工夫は、会場の目先を変え、来場者に「新鮮味を感じて頂こう」と、取り組みました。日本の祭りと言うと、たいてい日本の食べ物があり、日本的な舞台があり、日本の伝統的なものがあったりしてその雰囲気を味わって頂く、と言うのが基本的ですが、これだけですと今の情報過多の時代、他にも楽しむ事がたくさんありますので、ちょっと物足りなく感じられて、集客が難しくなることもあり



開会式

ます。そこで今年には日本のアニメ人気にあやかり、絵画コンクールを復活。今年の参加校は 8 校で、個人の出展も多く約 300 点ほどの応募がありました。どれをとっても 1 番を上げたいような作品が集まりました。

ホワイトホース市役所

そして、会場の雰囲気を面白いものにしようと、コスプレコンテストも企画しました。コスプレは日本語でいうと仮装するというのですが、若い世代でかなり凝っているグループがあり、それにヒントを得て、少し目先を変えてみるのもいいかなと思い立ちました。実際に会場に華やかな仮装の方々がいらっしやると雰囲気がガラッと変わり、皆さんの目を楽しませてくれました。今年は約 40 名くらいの方がコスプレの衣装で参加して下さい、予選勝ちした 11 名がステージ上がり、スポットライトを浴びた時は、来場者だけでなく、私達の日も楽しませてくれました。着物コンテストと並んで人気も定着してくれるといいなと思います。

イベントが無事終了し、ほっと肩の荷が降りたような気がします。この行事は大切な JCV の活動資金の基金集めの場でもあり、それと同時に、オーストラリアと日本の架け橋として交流を深めるイベントでもあり、また、遠く日本を離れてオーストラリアに住んでいらっしゃる方々にも、懐かしい日本を楽しんで頂ける場として有意義であればこんな嬉しい事はありません。

(特記：JF2011 の収益の一部は東日本大震災募金に寄付されます。)



南中ソーランを踊る子供たち

写真提供：平田大季氏、永嶋実氏